

自然と文化科 活動記録 (公開講演会)

日時	2025 年 9 月 19 日 (金) 10:00~15:00	担 当 者
場所	クロスパル高槻 午前：公開講演会 8階イベントホール 午後：各委員会、全体会議、班会議、運営委員会等	曾我千津子
備考	参加者数 1 班 23 名 2 班 19 名 3 班 16 名 4 班 20 名 他 4 名 合計 82 名	

- 講演のテーマ： ずいき祭りと新嘗祭
- 講演者名： 兵庫県生物学会顧問 清水美重子先生
- 講演要旨：

昨今のニュースで「米問題」が登場しない日はない。米のもとである稲は、「命の根」が語源と言われ、昔の人は、魂が宿っていると信じてきた。その収穫を神に感謝し、来るべき年の稲（いな）魂（だま）を誕生させる儀式が「新嘗祭」である。



私たちの祖先は、主食に「米」を選んだ。米によって国家が統一され、日本人の日本の社会・文化を作り育ててきたすべての源が「米」で、それを中心とした「稲作文化」が、日本文化の根幹をなしている。また、稲作が伝わる以前、焼き畑によるサトイモ栽培があり、その収穫を感謝する祭りが「月見」や「ずいき祭り」「芋くらべ」などで、古い祭りの形を現代に伝えている。米不足によって「米」を見直す良い機会、「米」や「芋」のいろいろを探ってみる。

・ずいき祭り

ずいき（芋茎、サトイモの葉柄）を用いて、畑作物の収穫を神に感謝する収穫儀礼。

芋茎で屋根を葺き、野菜・果物・花などで飾った神輿で町内を練り歩いたり、神社に奉納したりする。また芋茎で作った大蛇に、人身御供用の人形を供えたり、芋茎の長さを競い豊凶を占ったりする。



瑞饋(随喜)祭：北野神社（京都市右京区）、棚倉孫神社（京田辺市）、御上神社（滋賀県野洲郡野洲町）

蛇祭(ヒトリゴリ)：倭文神社（奈良市西九条町） 芋くらべ祭り（滋賀県蒲生郡日野町）

・新嘗祭

新しい稲の刈り入れを祝い、神に供えて感謝する収穫祭。

戦前は国家行事として催されたが、昭和 23 年 11 月 23 日をもって「勤労感謝の日」として国民の祝日に変わった。新暦で新嘗祭を行うと決めた明治 6 年、旧暦霜月中卯日が新暦 23 日であったため、この日となった。

穀物には稲玉が宿り、ご飯を食べることは、空腹を満たすためだけでなく、衰えた体内に稲玉を取り入れ、霊力の補強・再生をするためである。

ご飯とめしの違い

ご飯：白米のみ

碗－石

箸でつまんで口元に持っていき食べる

粘り気があるので落ちない

めし：白米以外

色んなものが入っている

碗－木

軽い器で口元まで持っていき、ばらばらになるため、かきこんで食べる

